

第59回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1998年10月23日（金）10:30～11:30

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、遠藤委員、木元委員
（事務局等）科学技術庁

原子力局
青江原子力局長
今村官房審議官
原子力調査室 森本室長、板倉、村上、池亀、國嶋
核融合開発室 中村室長
国際協力・保障措置課 瀬山課長
動力炉開発課 森口課長、山口
日本原子力研究所
吉川理事長、日笠 I T E R 業務推進室長
資源エネルギー庁
原子力産業課 蓮沼
原子力発電課 白井
古賀専門委員

4. 議 題

- （1）I T E Rに関する4種会合の結果について
- （2）第1回高速増殖炉に関する日露専門家会合の結果について
- （3）ドイツ新政権の原子力政策について
- （4）その他

5. 配布資料

- 資料1 I T E Rに関する4種会合の結果について
資料2 第1回高速増殖炉に関する日露専門家会合の結果について
資料3 ドイツ新政権の原子力政策について
資料4 第57回原子力委員会臨時会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）I T E Rに関する4種会合の結果について

標記の件について、事務局より資料1に基づき説明があった。これに対し、

- 4種から3種に減るものの各種の負担は変わらないとのことだが、目的は達成できるのか。

（今村審議官）エマール所長は達成できると話している。コスト低減の設計を優先的に行い、11月初めに示される所長の提案を踏まえ、各種の調整

を経て次回会合で作業計画を確定するとのこと。

(吉川原研理事長)共同中央チームと各極のホームチームの連携をより一層緊密にするとともに、全体の作業を一体的に行うことによって効率化と経費の削減を図る。

- ・ロシアは、現状を鑑みると、あまりあてに出来ない。EU全体としてのITERへのスタンスについては、EUの幹部とよく意志疎通を図るべき。
- ・3極で工学設計活動を継続することの意味については、核融合会議でよく議論し、強いメッセージを出してもらいたい。
- ・日本の経費負担として、3分の1+ α (α は相当に大きい)を出すくらいの気構えが必要ではないか。
- ・4極の時でさえホスト国は40数%~70%の拠出を求められる可能性があった。3極になれば、その負担がもっと増えるのではないか。
- ・国民が納得できるような考え方を核融合会議で議論すべき。
- ・ここで考え方をしっかり示すことは、今後の日本の全ての国際協力に影響する。
- ・いろいろと意見があったが、3極で実施するとして、その意義、理由をはっきりさせることが重要。

等の委員の意見及び質疑応答があった。

(2) 第1回高速増殖炉に関する日露専門家会合の結果について

標記の件について、事務局より資料2に基づき説明があった。これに対し、

- ・9月にロシアの原子力大臣と科技庁長官が会談したときの状況と、今回の専門家会合の状況では感触が異なっている気がする。ロシア政府内部において、上下の意志疎通が図られていないのではないか。
- ・この協力については、日本がイニシアティブを取っている良い例であり、順調に進展することを期待。

等の委員の意見及び質疑応答があった。

(3) ドイツ新政権の原子力政策について

標記の件について、事務局より資料3に基づき説明があった。これに対し、

- ・原子力を抑制した場合のエネルギーの安定供給や温暖化対策も考えているのか。

(原子力調査室)ドイツ政府は公式にはその件についてコメントしていない。

- ・産業界の反応はどうか。

(原子力調査室)報道によると電力の反発は必至とのこと。

- ・放射性廃棄物の処理について、BNFLなど海外の業者と契約しているが、これを破棄する場合の問題についても調べて欲しい。
- ・ドイツの政権交代による核融合についての対応への影響も気になる。よく、調べておいて欲しい。

等の委員の意見及び質疑応答があった。

(4) 議事録の確認

事務局作成の資料4第58回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。